

平成20事業年度に関する特色ある取組と 従前の年度評価の結果に関する対応状況(レジюме)



OITA UNIVERSITY

平成21年8月25日

国立大学法人 大分大学

I. 業務運営に関する特色ある取組

- ◆ 経営協議会において、「（前回会議後の）大分大学の活動状況」の報告、「本学の特色ある取組」の発表を実施

★実績報告書（抜粋版）P 4 参照

★実績報告書（資料編）2-4 参照

※主な報告・発表事項

| | | |
|------------------------------|-----------|--------------|
| ○不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援（学生支援GP） | 【第4回経営協議会 | H20.09.05 開催 |
| ○戦略的大学連携支援事業 | 【第5回経営協議会 | H20.11.07 開催 |
| ○ユズ加工残渣を活用したおいしい抗アレルギー飲料の開発 | 【第6回経営協議会 | H20.12.05 開催 |
| ○総合臨床研究センターの取組 | 【第8回経営協議会 | H21.03.06 開催 |

- ◆ 経営協議会学外委員の意見を反映させた「大分大学の道標」を策定

★実績報告書（抜粋版）P 4 参照

※反映させた主な意見

- 「自立心」を重視した人材育成
- 外国人との会話を重視した国際的な人材育成
- 附属学校が大分県で果たす役割、大分県の教育を支える教員養成に果たす役割の明確化
- 大分県における地域医療の取組に関して、大分県と大分大学医学部という人材養成機関との連携の更なる強化
- 組織の活性化及び永続的強化に関して、教職員を主体的にリクルートしていくという理念の必要性



大分大学の道標

- ◆ 全学的視点に立った戦略的教育研究事業等を一層推進するため、学長裁量経費を前年度比**3,000万円増の1億8,000万円**とし、外部の競争的資金の獲得に積極的に挑戦することを目的に4つのプログラムへ重点的に配分

★実績報告書（抜粋版）P 4, 8, 9, 12 参照

★実績報告書（資料編）1-2 参照

※重点化した4つのプログラム

- ① 教育改革拠点形成支援
- ② 研究推進拠点形成支援
- ③ 若手研究者萌芽研究支援
- ④ 社会連携支援

※重点配分の結果

- 6つのGPを獲得
- 外部資金（寄附金を除く）= **44件**の増加, **2億5,400万円**の増収
- 科学研究費補助金 = **12件**の増加, **1,300万円**の増収

- ◆ 「事務改革推進のためのアクション・プログラム」の実施

★実績報告書（抜粋版）P 4, 7 参照

※主な実施事項

- 内部規則の再構築
- 全学的な情報化を推進する「情報化推進室」の設置
- 専門的な外部人材の積極的な登用
- 業務手順説明書の整備
- 「職制のフラット化」「組織の柔軟化」を柱とした事務組織の見直しの検討



事務行動改革計画書

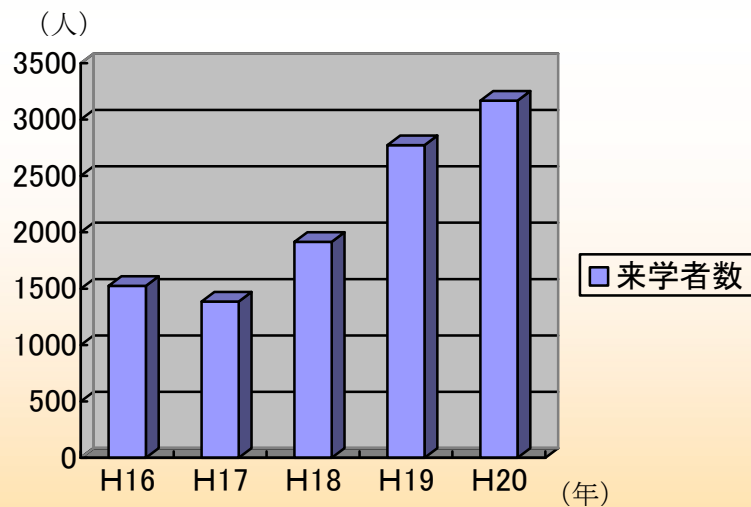
Ⅱ. 教育に関する特色ある取組

○ 学生募集に関する特色ある取組

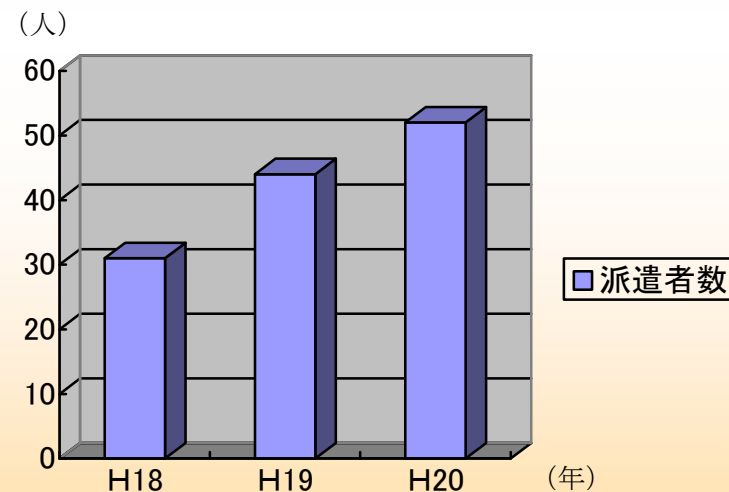
◆ 入学者選抜全般に関する企画戦略を策定する「入学企画支援センター」の設置

- 約3,200名が来学したオープンキャンパスの実施
- 52名の学生によるキャンパス大使を13の高校へ派遣
(キャンパス大使については、平成18年度より全学的に実施)
- 様々な活動の結果、志願者430名(約8%)増加、検定料600万円(約7%)の増収

★実績報告書(抜粋版)P4, 11, 12 参照



オープンキャンパス来学者数の推移



キャンパス大使派遣者数の推移

※平成18年度より全学的に実施

○ 学生支援に関する特色ある取組

- ◆ 「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援事業」が「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」（GP）に採択

【4年間で約6,000万円】

- 学生や保護者からの相談に対して精神科医，臨床心理士，ソーシャルワーカー（社会福祉士）が対応
- 学生にフリースペースや学習支援の場を提供する「ぴあROOM」を設置
- 休学者：約5%減，退学者：約21%減，除籍者：約65%減



ぴあROOM

★実績報告書（抜粋版）P5, 11, 12 参照

- ◆ 民間資金による長期借入金と目的積立金の活用により学生寮を改修

★実績報告書（抜粋版）P5, 16 参照

- ◆ 民間資金によるコンビニエンスストアの建設

★実績報告書（抜粋版）P5, 16 参照

- ◆ 寄附による既存福利施設売店等の改修

★実績報告書（抜粋版）P5, 16 参照



改修後の学生寮



コンビニエンスストアの開店



リニューアル後の売店

- ◆ 平成20年度後半からの経済状況の悪化に伴う緊急支援として、平成21年度新入学生に対して、入学料の免除及び徴収猶予に関する**40名分（1,128万円）**の特別支援制度を設定
★実績報告書 P74 参照
- ◆ 経営協議会学外委員からの提言により、国際経済不況に起因する経済状況の厳しい私費留学生**39名**に対して、緊急支援のための一時金として1人あたり**10万円**を支給
★実績報告書 P88 参照
- ◆ 卒業生、修了生によるキャリアサポーター制度を設け、**168名**のサポーターが登録（平成21年3月31日現在）しており、講演会（**2回**）及び意見交換会（**1回**）を実施
★実績報告書（抜粋版）P19 参照



キャリアサポーターによる講演会

○ 教育方法等の改善に関する取組

- ◆ 「学問探検ゼミを核とした高大接続教育－教員間及び学生生徒間の連携活動による『学びは高きに流れる』教育体制の構築－」が「質の高い大学教育推進プログラム」(GP)に採択 【**3年間で約5,000万円**】
★実績報告書（抜粋版）P5, 18 参照
- ◆ 全学共通科目「障害者ボランティア講座」の受講学生約**150名**が、大分県で開催された全国障害者スポーツ大会のボランティア要員として活動
★実績報告書（抜粋版）P18 参照



全国障害者スポーツ大会の様子

○ 大学教育改革支援プロジェクト（GP）の採択状況

本学単独または代表校として採択された取組

| 区分 | 採択プログラム | 補助・委託期間 事業規模 (金額は選定時) |
|---------------------|---|-----------------------------|
| 新たな社会的ニーズに対応したプログラム | 不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援 －キャンパス・ソーシャルワーカーとの協働による学生の自己選択能力の形成支援－ | 4年間 約6,000万円 |
| 戦略的大学連携支援事業 | 地域連携研究・留学生支援・教育連携を柱とする地方における高度人材養成拠点の構築 | 3年間 約1億5,000万円 |
| 質の高い大学教育推進プログラム | 学問探検ゼミを核とした高大接続教育 －教員間および学生生徒間の連携活動による「学びは高きに流れる」教育体制の構築－ | 3年間 約5,000万円 |

本学が連携校等として採択された取組

| 区分 | 採択プログラム |
|--------------------|--|
| 戦略的大学連携支援事業 | スーパー連携大学院構想 産学官の広域連携を通じたイノベーション博士人材の育成 |
| 大学病院連携型高度医療人養成推進事業 | 中九州三大学病院合同専門医養成プログラム －地域医療支援と臨床研究推進の共有システム構築－ |
| 大学病院連携型高度医療人養成推進事業 | 多極連携型専門医・臨床研究医育成事業 |

★実績報告書（抜粋版）P5, 11, 12, 18, 19 参照

Ⅲ. 研究に関する特色ある取組

- ◆ (独) 科学技術振興機構公募事業に「**「ヒト型スーパー抗体酵素」の効率的作成技術開発と新治療薬の創製**」が採択
【3年間で約**1億3,500万円**】
★実績報告書(抜粋版) P 6 参照
- ◆ (独) 科学技術振興機構公募事業に「**術中運動野同定・機能的ナビゲーションシステムの開発**」が採択
【3年間で約**6,900万円**】
★実績報告書(抜粋版) P 6 参照
- ◆ 新しい薬剤の治験の迅速化とがん医療に関わる臨床試験の円滑な実施のために「**総合臨床研究センター**」を創設し、病棟内に「**臨床試験専用施設(CTU)**」を設置
★実績報告書(抜粋版) P 6, 20 参照
- ◆ 重点研究の推進及び全学的な研究支援体制の充実を図るため「**全学研究推進機構**」の設置を決定
(平成21年10月より稼働予定)
★実績報告書(抜粋版) P 6, 19 参照
- ◆ (独) 日本学術振興会の「**著名外国人研究者招へい事業**」の受入主幹校として2005年ノーベル医学・生理学賞受賞者であるロビン・ウォーレン西オーストラリア大学名誉教授(大分大学名誉博士)を招へいし、特別講演を実施

★実績報告書(抜粋版) P 6 参照



講演を行うロビン・ウォーレン教授

IV. 社会との連携に関する特色ある取組

◆ 「地域連携研究コンソーシアム大分」の活動強化

★実績報告書（抜粋版）P 6 , 19 参照

本学が代表校として「地域連携研究コンソーシアム大分」連携校に参加を呼び掛け、2つの事業が採択

※地域連携研究コンソーシアム大分=本学のリーダーシップの下で運営し、各大学等の共同研究により地域課題の解決を目指す組織

○ 「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）」に採択

（担当プログラム：戦略展開プログラム「知的財産基盤の強化」、コーディネートプログラム「地域の知の拠点再生」）

- ・ 大分県内の高等教育機関7校が参加する「地域連携研究コンソーシアム大分」において知的基盤整備事業を推進
- ・ 連携校、企業、自治体等から約150名が参加したシンポジウムを開催
- ・ 医学部（挟間キャンパス）にリエゾンオフィスを設置

○ 「大分県における地域連携研究・留学生支援・教育連携を柱とする地域における高度人材養成拠点の構築」が「戦略的 大学連携支援事業」（GP）に採択

- ・ 大分県内の8大学等（地域連携研究コンソーシアム大分+別府大学短期大学部）との連携
- ・ 大学間連携による29件の共同研究課題を設定
- ・ 戦略的大学連携支援事業の管理業務を行う「リサーチ・ファクトリー」を設置

※「地域連携研究コンソーシアム大分」連携校

- | | |
|----------------|---------------|
| ・ 大分大学 | ・ 大分県立看護科学大学 |
| ・ 大分県立芸術文化短期大学 | ・ 日本文理大学 |
| ・ 別府大学 | ・ 立命館アジア太平洋大学 |
| ・ 大分工業高等専門学校 | |



産学官連携戦略展開シンポジウム
における広瀬大分県知事の講演

V. 従前の年度評価の結果に関する対応状況

| |
|--|
| 平成17年度評価結果における指摘内容 |
| <p>年度計画【185】「教務委員会が学生支援部と連携して、3年生以上の学生が、Webから履修登録を行う方法等について検討を行う。成績結果の確認や履修単位の照会に関してもWebで行えるよう検討を開始する。」については、ワーキンググループ設置にとどまっており、平成18年度から検討を開始するとされていることから、年度計画を十分に実施していないものと認められる。</p> |
| 対応状況 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○新教務情報システムの導入を完了（平成20年10月本格運用開始） ○履修登録、成績管理、シラバスや履修情報の学生への掲示等について集中・一元化を実施 ○学生の利便性を向上させるとともに教職員の教務関連業務支援を一元化して行える体制を整備 |

| |
|---|
| 平成18年度評価結果における指摘内容 |
| <p>大学院博士課程において、学生の収容定員の充足率が85%を満たさなかったことから、引き続き、速やかに定員の充足や入学定員の適正化に努めることが求められる。</p> |
| 対応状況 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○大学院博士課程＝収容定員162人に対して184人が在籍、充足率は114%（平成20年5月1日現在） ○医学系研究科では、博士課程の4専攻を改組して「医学専攻」に一本化し、「基礎研究領域」、「臨床研究領域」及び「がん専門領域」の3つの教育分野を新設 <p>※参考 平成21年5月1日現在の充足率＝109%</p> |

★実績報告書（資料編）10-1-1, 10-1-2 参照

大分大学学歌

作詞 蛙屋 萬斎
作曲 道谷 増夫

一. 速吸瀬戸の 風寄せる
恵み豊かな この海は
無限の理想 膨らます
我らここに 学びては
深き叡智を 養いて
未知へと挑む 者ならん
ああ 大分大学 我らあり

二. 遠く山並み 仰ぎ見る
稔り豊かな この平野
自由の想い 強くする
我らここに 学びては
創造の気を 育みて
時代を導く 者ならん
ああ 大分大学 我らあり

三. 広く世界に 開かれた
歴史豊かな この地には
進取の気概 溢れたり
我らここに 学びては
その志 受け継ぎて
世界に羽ばたく 者ならん
ああ 大分大学 我らあり



渡辺恭英 画